

平成18年4月14日

石巻市長
土井喜美夫様

提 案 書

牡鹿地域まちづくり委員会

牡鹿地域まちづくり委員会からの提案

1. 個性あふれる人と文化をはぐくむまち【教育・文化】

(1)総合計画において検討してもらいたい事項

①学校教育施設整備の推進

近い将来、高い確率で起きるとされる宮城県沖地震に備えるため、合併前から各学校の耐震診断を実施してきていますが、まだ耐震診断が未実施である校舎の耐震診断の早急な対応が必要である。

また、築35年程の鮎川小学校を始め、ほとんどの校舎が老朽化している時期であり、想定される宮城県沖地震の震源に最も近いこともあることから、補強すべき箇所又は、危険性の高い部分の取り壊し等、早急な対応が必要であると考ええる。

②小・中学校の統合問題について

地域を元気にするためには、人づくりが大事であると考えられ、保育所から中学卒業まで少人数の同級生とずっと一緒というのは、いかにも刺激が少なく、向上心に欠けると思われ、生徒数を増やし多くの友人と切磋琢磨し、有意義な少年時代を過ごせるように、小学校・中学校のそれぞれの統合が必要であると考えられる。

平成15年度に「おしか教育環境問題検討委員会」を立ち上げ、小・中学校の統合問題について協議し、当時の牡鹿町長に報告書を提出しており、新市では、平成18年度から「統合検討委員会」を立ち上げるとのことであるが、「おしか教育環境問題検討委員会」が慎重審議に検討した内容を無駄にすることなく、継続的に進めて行くべきである。

(おしか教育環境問題検討委員会からの報告概要)

○現在4校ある小学校については、地域性、色々な条件を考慮すると、当分は現状のままで進むことが妥当であると考えられるが、長期的展望には2校案も検討していく必要もある。

○現在3校ある中学校については、2校案から1校案への二段階案もあったが、その後、再び統合の話題が出るということは充分予想されることを考えると、1校案に絞って実施することとするが、地域的な問題から吸収合併は難しいため新校舎建設による統合が望ましい。

(2)新石巻市として取り組んでもらいたい事項

①教育・文化活動の推進

新石巻市における一体感の醸成を促進させるため、教育、文化、スポーツ等のイベントを積極的に開催することが必要であると考えられる。

2. 健康で安心を実感できるまち【健康・福祉】

(1)総合計画において検討してもらいたい事項

①地域医療体制の充実

大災害の発生に備え、石巻市内各医療機関のネットワークの体制づくりが必要であり、民営、公営関係なく各医療機関がネットワークで結ばれることにより、病院間の情報交換が行われ、災害の際の対応ばかりでなく通常診療の際の対応にも効果が期待できるため、石巻市内各医療機関のネットワーク体制の整備・強化が必要であると考えられる。

また、牡鹿地域の過疎化と高齢化は、もう止めようがない現実であり、34%の高齢率は今後いろいろな問題を発生させることが予想され、安心して、この牡鹿地域に住める環境づくりの一環として青壮年期からの健康づくり、高齢者が一人(二人)でも暮らせる地域のネットワークづくり、そして、内科、外科、歯科以外でも近くの病院で診てもらえる体制づくりを同時進行で整備すべきである。

さらには、離島における高齢化が急速に進む中、医療・福祉対策の充実が求められているため、離島において民間病院が安心して住民医療に従事できるための財政支援の継続を要望します。

牡鹿地域には原子力発電所も存在しているので、地域の特性として医療者にもっと原子力発電所事故に対する知識、治療法、対処法などの最低限の知識を指導してほしい。

②高齢者福祉の充実

牡鹿地域の高齢化率は他には類を見ないほど急激に進んでいる現状にある。

介護保険制度も利用者の増加により色々な制限が出てきている。介護保険利用の予防・健康増進するためにも、高齢者に対する事業の整備推進と継続の必要性を感じます。

また、人口の急速な減少と高齢者人口の増加等で益々人口の流動化が鈍る中で人の出入りの新しいチャンネルを作る必要がある。例えば、都会に生活拠点をもちながら、別荘気分で一年に何度も牡鹿と行き来できるようなサービスを提案したい。

具体的には、希望者に土地と間伐材を利用したバリアフリー対応の住宅、そして残りの土地を畑として楽しめるようにする。低価格で一定期間貸し出し、管理できないときの畑は周辺農家のお年寄りに面倒を見てもらう。市は、畑や海など牡鹿周辺の情景を1ヶ月に一度電子メールで送信する。長期の滞在が地元の消費を増やし、間伐材の利用で山が生き返り、地元材の利活用で関連業界に活力が生まれ、畑の管理でお年寄りが生きがいを見出し、収入も得られる。さらに定住につながる等の期待も持てる。

3. 活力と創造に満ちた産業のまち【産業・雇用】

(1)総合計画において検討してもらいたい事項

①つくり育てる漁業の推進

海に生息している再生産が可能な水産資源・魚介類の維持・増大を図りながら有効に漁獲する。

人工的に生育させた稚魚・稚貝を海に放流し漁獲サイズまで成長した段階で有効に漁獲する。

これらを推進することにより、水産資源・魚介類を積極的並びに効率的に増やす事が可能となるが、つくり育てる漁業を推進するためには、宮城県栽培漁業センターや遊漁者の協力が不可欠であるため遊漁船業者との協力体制整備並びに理解を得る事にも努めなければならない。

②観光によるまちづくりの推進

牡鹿地域では、夏季は賑やかさを感じるが、冬季には観光客も少なく閑散とした雰囲気を感じ、魅力を感じない地域になる。

一年を通して観光客を呼べるイベントの企画を考える必要があることから、都市・漁村交流事業の推進や観光漁業の推進にも積極的に取り組まなければならない。

牡鹿地域においては、地域の文化・伝統行事・各種漁業・新鮮な魚介類・自然・景観及び海洋性スポーツ、女川原子力発電所PR館を始めとする観光施設などさまざまな交流が可能であり、このような交流活動を推進することにより周辺地域の活性化を図ることが期待できる。

また、将来にわたり持続可能な漁業を続けるために、漁業生産のみに依存する漁業経営からの転換を図り漁業と観光の連携による「観光漁業」を推進する。それにより地域産業の活性化が図られ就業機会の増大により定住人口の増加が期待できるが、「観光漁業」を事業として軌道に乗せる為には、漁業者と観光事業者との協力体制の構築が不可欠であり関係者が参画した協議の場・組織が必要であるため、行政のバックアップにより地域の基幹産業である漁業・観光事業の可能性を発展させる事が期待される。

③漁業経営の近代化と増収施策の推進

牡鹿地域は漁業が基幹産業ですが、後継者不足や漁業収入の減少により先が見えないのが現状で

あり、漁業近代化についても地区ごとで格差があるため、個人ごとの経営から全体の底上げを図る必要性を感じます。

漁業協同組合の合併問題をはじめ、付加価値をつけた製品の出荷など、すぐにできるところから、まず始めるという発想が必要であると考えます。

4. 安全で便利に暮らせるまち【生活環境】

(1)総合計画において検討してもらいたい事項

①道路施設整備の推進（県要望）

牡鹿地域では、県道石巻鮎川線が唯一の幹線道路であり、通勤、通学等の生活道路、新鮮な水産物を運ぶ産業道路、金華山等への観光道路、そして原子力災害等の非難道路の役割を担っている。

しかしながら、石巻市中心部への移動には時間がかかるだけでなく、途中一部民家や外灯もなく、また携帯電話の電波が入らない地域もある。地形的に制約の大きい三陸沿岸地域にあって過疎化を促進しているような道路状況が若年層の流出に拍車をかけており、道路事情が改善されれば市内中心部への通勤・通学が可能となり、生活環境が向上されることにより、若年層流出の抑制、地域間交流の促進、地域の活性化などが期待されることから、県道石巻鮎川線の早期全面整備を早急に推進してもらえよう、強く宮城県に要望してもらいたい。

②交通体系の整備

牡鹿地域には、何本かの道路を動脈として存在する地域にある。災害などで道路が寸断された事態を想定し、道路交通網の整備が必要と考える。災害に備えるためヘリポートの整備の必要がある。牡鹿地域の緊急時ヘリポートは散水をしてはじめて使用できるヘリポートであり、災害時や緊急事態の際に散水する人員の確保も容易ではないので、ヘリポートを整備する必要性を感じる。

また、牡鹿地域は、離島を擁しているため、唯一の交通手段が離島航路である。今後においては、フェリーの鮎川港への停泊や急病人の搬送などの緊急時の対応も含めて、船の利便性の向上に期待する。

③臨海路面の堤防の安全点検と補修

スマトラ沖の惨事、アメリカ南部の地震など、自然の猛威をおもいしらされるのであるが、この8月16日の地震には、他人事ではないと誰もが感じたと思う。

地域柄、海に面した集落が大半で、早くから堤防が築かれたが、聴くと、建設以来40年近くも経っているところもあるという。あまり規制の厳しくなかった中での建設だったという。

そんな視点で見ると、堤防の継目や堤防の脚がむき出しに近い状態に見え出したりする。住民の不安を和らげるためのも、点検の必要があると考えられる。

④消防施設整備の推進

消防施設については、現在の状況を下回ることなく継続して整備してもらいたい。

5. 環境と共生する快適なまち【自然環境との共生】

(1)総合計画において検討してもらいたい事項

①森林育成の推進

森林育成の推進については、漁業にも大きく関係することから、貴重な森林資源の再生に向けた取り組みが必要であると考えられる。

官民が協力して植林を施している所も少なくない。良い案はないか調べ取り組んでほしい。

②牡鹿半島におけるニホンジカ対策の推進

近年、牡鹿半島においてはニホンジカの個数体が急増し、それにより様々な影響が表面化しております。具体的には、農作物の食害・踏み荒らし、植林木の食害・樹皮剥ぎ、牧草地内における牧草の

食害、シカの飛び出しによる自動車との衝突事故等が挙げられますが、これらの被害は日常的に発生している状況にあり、被害防除対策の確立が急務の課題となっております。また、個体数の増加により、表土の流出等植生や自然環境への悪影響も懸念されており早急にニホンジカの個体数管理に関する施策が実施されるよう要望します。

牡鹿地域まちづくり委員会

牡鹿地域まちづくり委員会

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

会 長
副会長
委 員
委 員
委 員
委 員
委 員
委 員
委 員
委 員
委 員
委 員
委 員

阿 部 輝 也
高 橋 浩 子
渡 辺 玲 子
阿 部 恵 一
渡 辺 のり子
平 石 昌 宏
大 澤 時 枝
渥 美 浩 一
斎 藤 富 嗣
谷 中 紳 多 郎
萬 代 宮 子
遠 藤 勝 彦
益 満 環
小 野 寺 たつえ
本 間 秋 彦